

いなほ

飯田小学校だより No.8

平成30年11月5日



「心と心をつなぐ架け橋」

10月30日 朝会の校長の話より



元気よく挨拶できましたね。とても気持ちがよいですね。今日は、挨拶の話をします。

皆さんの中に、こんな人がいます。自分のことかな、誰のことかなと考えながら聴いてください。

登校してきて横断歩道を渡るとき、止まってくれた車に向かって、必ずおじぎをしてお礼の気持ちを表している人。私がするより先に挨拶ができる人。「先取りあいさつ」ですね。大きな声で元気よく（怒鳴り声ではなく）、挨拶ができる人。私の顔をしっかりと見て、目を合わせて挨拶ができる人。「校長先生、おはようございます。」「校長先生、さようなら。」と、私を呼んでから挨拶してくれる人。すれ違った地域の方に、進んで挨拶ができる人。廊下ですれ違うと、会釈をしてくれる人。お客さんを案内して学校内を回っていると、廊下などで「こんにちは。」と自分から挨拶ができる人。（授業中はしなくてよいですよ。）

どうですか。自分のことだなと思った人はいますか。あの子のことかなと友達の顔を思い浮かべた人もいるでしょう。

今、紹介した人たちには、共通していることがあります。どんなことだと思いますか。それは、相手のことを考えて、相手に届くように、挨拶ができているということです。

「挨拶は、心と心をつなぐ架け橋」と言われます。どうしてそう言われるか考えてみてください。挨拶を進んでしたり挨拶をされたりすると、私はとてもよい気持ちになるし、ちょっと元気がない日でも元気が出て笑顔になります。逆に、私が挨拶をしても、挨拶が返ってこなかったり、小さな声で下を向いて挨拶されたりすると、私の挨拶は、その人に届かなかったのかなと悲しい気持ちになります。

私は毎朝、学校の南側の横断歩道で、旗振りをしています。車で通る人の中には、私に頭を下げてくださる方が何人もいます。私も頭を下げて挨拶します。ほとんどの人が私の知らない人ですし、車ですから声も聞こえません。でも、私は、心がとても温かくなり、話したことはないけれど知り合いのような気持ちになっています。

挨拶は、「おはようございます」や「さようなら」だけではありませんね。「失礼します」「いただきます」「ありがとう」「ごめんなさい」まだまだあります。挨拶は、人と人とが気持ちよく生活するために欠かせない、そして自分の心と相手の心をつなぐ大切な言葉や動作なのです。だから、「心と心をつなぐ架け橋」なのです。これは、「相手を大切に思う」ということにつながると私は思います。

今年度、せんだん委員会の人たちが考えた児童会スローガンは、「我慢にしよう 飯田っ子のあいさつを ～学校・地域にひびかせよう～」です。これは、いじめをなくすスローガンにもなっています。「相手を大切に思う」ということが、いじめ0につながるのです。

今日は、自分の日頃の挨拶の仕方を振り返ってみてください。

いつでも・どこでも・誰とでも、気持ちのよい挨拶を交わし、みんなの心をつないで、飯田小を「笑顔いっぱいの学校」にしていきたいと思います。

